ロマンは実を結ぶ No.231

本社総支部

組織内での軋轢に正々堂々と立ち向かい 間接部門ならではの活動を創り上げる！

本社総支部ホームページ

１９９３年10月24日、近畿地本解散大会を開催し、本社総支部が誕生しました。本社総支部は、名前の通り地本（地方本部）ではなく、中央本部の付属機関的位置付けですので、他の地本と異なり、様々な事柄に対する決定権がありません。本社総支部は、会社経営等に直結する業務を行っている組合員を多く抱えていることから、本社総支部の先人の方々は、かなりご苦労されたと聞いています。

現在は、先人の方々が汗をかき、位置付けも認められ、本社総支部出身の先輩方も中央本部で活躍されていますし、昨年7月に開催された定期中央本部大会の準備地本を、ＪＲ西労組結成後初めて担わせて頂くまでになりました。

こういった歴史的な状況や背景を認識した上で、ＪＲ西日本の間接部門で働く約４，０００人の代表として、「間接部門の社員でも組合員である」を自覚・認識した課題提起を積極的に行っています。

総支部全員の力を結集して成功させた定期中央本部大会

さて、私たち本社総支部は、本社、新幹線鉄道事業本部、大阪工事事務所、大阪電気工事事務所、大阪鉄道病院（健康増進センター本所含む）、東京新幹線総合指令所、東京本部（東京営業部含む）、また本社付けで出向している約２，７００名、21分会で構成されています。構成組織が多岐・広域に跨っていることから、情報共有や活動の展開に力を入れています。

こういった課題を解決すべく、基本各分会から1名の総支部執行委員を選出し、本社総支部と各分会との連携を強化する体制（連結ピン体制）の構築や、本社総支部ホームページやSNSを通じて、組合員への情報伝達の迅速化に努めています。

また、過去に本社総支部内で発生した悲しい事象をきっかけに、働き方改革を運動方針の柱とし、仕事の進め方の見直し、業務変革推進について、積極的に労使で議論を進めているほか、「パワーハラスメントは絶対許さない！」との信念のもと、そういった状況が発生した場合は、徹底的に労使で議論を行っています。

今後も、組合活動の原点である「世話役活動」や分会活動の活性化に努め、魅力ある間接部門の構築と組合活動の重要性について、今までの活動に捉われることなく、新しい発想や手法を取り入れ、積極的に展開していきます。

〈本社総支部〉

2019春季生活闘争妥結にあたっての中央闘争委員会見解

ＪＲ西労組中央闘争委員会は、本日2019春季生活闘争の最終交渉に臨み、基準昇給の実施に加え、純ベア1,000円、年間臨給5.48ヶ月分、九州地区の特急通勤の改善等の回答を引き出した。また、別居手当の支給要件についても、一部見直すことを確認した（6月目途）。さらには、強い要望のあったいわゆる地上職について、職場環境などについて改善に向けた検討を行うことを確認するとともに、定年延長への対応や職制の見直しなど、昇進賃金制度全般についても、労使での議論に向け検討を開始することを口頭で確認、この間の組合員の労苦に応える回答と判断し席上妥結した。

ＪＲ西労組は連合・ＪＲ連合方針に基づき、月例賃金総額6,000円以上の引き上げ、純ベア3,000円、年間臨給5.7ヶ月を中心とする要求を提出し、ＪＲ西日本の堅調な経営動向を背景に、組合員と家族の負託に応えるべく、成果の公正な分配を求めて精力的な交渉を重ねてきた。

今春季生活闘争は、昨年相次いだ自然災害の影響を受けつつも、順調なご利用状況により、ＪＲ西日本の経営動向も過去最高の収益・営業利益が見込まれる中で組合員の期待が高まる闘いとなった。

我々鉄道業は、業績が大幅に上下せず、安定的、永続的に鉄道を核にサービスを提供し、長期雇用を通じて技術・技能の向上を培っていくことが重要であるとの認識を踏まえ、安定的な配分を持続させることが組合員の生活の改善、労働意欲や求心力の向上につながると主張し、6年連続のベースアップにこだわって議論を行ってきた。特に地上職への手当をはじめとする各種手当の改善や他社の特急通勤利用、別居手当の支給要件の改善などを求めて交渉を展開してきた。

一方で、会社は、シニア・シニアリーダー、契約社員の待遇改善や自然災害に伴う工事の先送りにより、次年度決算見通しが厳しい一方で、収入面においては、GW10連休やおおさか東線の開業等のプラス要素があるとの見込みを明らかにした。最終局面では、大手企業の賃上げ回答が昨年と比して低調となる中、中央闘争委員会は、組合員とその家族の熱い思いを受けて、生涯賃金の増加につながるベアを最優先に徹底してこだわる粘り強い闘いを続け、最終的に純ベア1,000円、年間臨給5.48ヶ月を中心とする成果を勝ち取った。労使で生み出した成果に基づき中長期的視点で安定的に社員に配分、還元し、6年連続ベアにより5,450円の純ベアを積み上げたことは、組合員の働きがい向上に資する大きな成果と考える。地上職の手当や夜間看護等手当の改善や今年度限りの祝日増に対する手当支給を勝ち取るには至らなかったが、ベアや年間臨給による成果配分を重視した判断として受け止める。

今春季生活闘争も檄布行動や各級機関の春闘集会等への積極的な参画により、中央闘争委員会を精力的に支えていただいたすべての組合員と家族の皆様に心より感謝申し上げる。今後、両バス地本、広島病院支部、宮島フェリー支部、ＪＲ西日本連合に結集する労組の交渉が本格化する。この成果を活かして相乗効果が発揮されるよう最大限支援していく。

最後に、今後も新幹線重大インシデントへの対応を含め安全を基礎に、会社の健全な発展を通じて私たちの地位の向上へ邁進していく決意を明らかにし、2019春季生活闘争妥結にあたっての中央闘争委員会の見解とする。

2019年3月13日

西日本旅客鉄道労働組合（ＪＲ西労組）
2019春季生活闘争中央闘争委員会

組織内議員が続々と活動を展開中！

楠木議員事務所開き（2／10）

栗山候補の決起集会（2／17）

柿本候補事務所開き（2／9）

田尻議員事務所開き（2／24）

３月２９日告示、４月７日投票日の第19回統一地方選挙に向けてＪＲ西労組組織内議員の各議員が続々と事務所開きや集会などをおこなっている。

今回の統一地方選挙の結果は、国政にも大きく影響を与え、我々の政策を早期に実現させるためにも、非常に重要な選挙である。

すべての各推薦議員を議会に送るべく、ＪＲ西労組組合員をはじめ、家族も含めた全員で必勝に向けた取り組みをお願いする。